海洋教育パイオニアスクールプログラム成果報告書

１．学校名　宿毛市立小筑紫小学校

２．活動テーマ名（教科との関連）

「学ぼう！伝えよう！豊かなふるさとの海」

（総合的な学習の時間、生活科、理科、特別活動、家庭科）

３．活動のねらい

本校は四国の西南端に位置し、温暖な気候と海、山、川に恵まれた豊かな自然に囲まれた地域である。学校の南に福良川が流れ、南西には宿毛湾が広がっている。宿毛湾は天然の養殖場といわれるほど豊かな海で、保護者の中には漁業関係者も多く、海と共に生活している地域ともいえる。こうした豊かな自然に囲まれ生活をしている子どもたちではあるが、海への関心は低く、海の恩恵や知識はまだ薄い。そこで、海洋教育をさらに充実させ、低学年から海に親しませると共に、海に生きる方々と交流し、体験活動をすることで自分の住む地域に誇りをもたせたい。また、豊かな海を継承するためにも、海を守り、共生していこうとする人材を育成したい。

４．実施内容（教科との関連）

①　校区内にある大海の浜で春の全校遠足（学校行事６）

５月１日に「春の遠足」を行った。この日は避難訓練をした後、海上保安署の方に海岸で地震が発生したとき、津波から命を守る方法を教わった。その後、釣りをしたり、石を海に投げて水切りをしたり、磯遊びを楽しんだ。この日は潮もよく引き、潮だまりの中には、小エビやカニ、魚や蛸、ヤドカリがたくさんいた。子どもたちはとても楽しそうにエビやカニを捕まえたり、貝殻を拾って遊んだりしていた。こうした行事の中でいつも素敵だなと感じるのが、上級生が下級生のことを考えて優しく声掛けをしたり、お世話をしてくれたりする姿があることだ。遠足の終わりには、全校児童と海上保安署の方々が一緒になって、浜の清掃活動をした。宿毛湾は景観が良く、海の生き物の種類も多い海だといわれているが、海が荒れた後はたくさんのゴミが打ち上げられる。こうした「海に親しむ」活動を通して、きれいな海を守っていこうとする態度が育成できればと思っている。

甲羅に笑った顔が！
子どもの書いた記事が高知新聞子ども記者の欄に掲載されました。

②　幡多青少年の家で宿泊体験学習（学校行事 12、総合的な学習の時間４、特別活動２）

6月20日～21日に５年生が幡多青少年の家で宿泊学習を行った。初日の活動は、「シーカヤック」、２日目は「スキムボード」に挑戦した。どの活動も子どもたちにとって初めての体験だったが、あっという間にパドルを上手に使ってシーカヤックを操作したり、スキムボードで波乗りしたりして楽しく活動できた。

宿毛市は海、山、川があり、自然豊かな地域ではあるが、子どもたちが海で泳いだり、山に行って山芋を掘ったり、アケビを採ったりするといった自然の中での遊びが少なくなってきている。こうした活動は子どもたちにとっても新鮮で楽しい

活動である。みんなが意欲的に活動し、上達したことへの喜びや達成感を味わうことができた。

○スキムボードを教えてもらって十数回目に初めてうまく乗れました。うれしかったです。その後は、何回も乗れました。ぼくはこの宿泊学習で、みんなと活動することの楽しさや協力することの大切さなどたくさんのことを学びました。
○みんなで気持ちを合わせてパドルを漕ぎました。手がちょっと痛くなったけど、とても楽しいシーカヤックでした。「エイがいた！」「クラゲがいた！」と驚いている人もいました。とても楽しかったです。海での学習は楽しいなと思いました。
（～子どもたちの感想から一部抜粋～）

③ 全校児童と保護者で避難訓練・防災学習（学校行事３）

8月19日に親子避難訓練や防災講演会（学習）を行った。最初に親子で小筑紫駐在所裏山へ避難し、そこで防災士の松岡先生の話を聞き、その後図書室に移動して「地震の揺れや津波から身を守る方法」を教わった。想定外の津波が押し寄せ甚大な被害を受けたり、大規模なが け崩れが発生し多数の住宅が巻き込まれたりと日本では大きな地震が続いている。こうした中で、地域・学校・保護者がそれぞれに防災についての考えを深めていくよい機会となった。

今後、必ず発生する「南海トラフ地震」でも、小筑紫小学校付近では2.12ｍの液状化現象による地盤沈下と10ｍをこえる津波の発生が予想されている。小筑紫の子どもたちにとって海は身近な存在であり、海からたくさんの恩恵を受けている地域ではあるが、命を守るためにも地震や津波についての正しい知識と継続的でより実践的な防災学習に取り組んでいくことが大切になる。この防災学習では防災意識を高め、命を守るために何が大切なのかを親子で考えることができた。

④　福良川の汽水域での水辺の生き物調べ（生活科６）

10月9日に１、２年生が黒潮生物研究所の中地所長を講師に招いて、福良川河口の海辺の生き物観察をした。最初に教室で干潟にいる貝やエビなどの生き物の話を聞いた。その後、学校のすぐ西側の福良川河口に行き、熊手を使って貝や海辺の生き物を探した。潮の引いた干潟にはたくさんのエビやカニ、巻き貝や二枚貝がいた。しばらくすると、バケツ一杯に牡蠣を採った子やエビ、カニを捕って喜んでいる子、たくさんの貝やヤドカリを集め楽しそうにしている子がいた。中地所長が捕まえたアナジャコを見せてもらった後「みんなの立っている下にはたくさんの貝や生き物がいるんだよ。」という話に子どもたちは驚いていた。自然と触れ合うことのできるこうした体験学習はみんな大好きで、目を輝かせて活動していた。

⑤　栄喜漁協女性部の協力による出前授業（家庭科２、総合的な学習の時間２）

10月4日に栄喜漁協女性部、宿毛漁業指導所、宿毛市産業振興課、学校給食センターのご協力で、５年生が魚を使った料理に挑戦した。

この授業では、鯛めし、刺身、キビナゴやサゴシのフライ、サラダ、みそ汁などたくさんの料理に挑戦した。

初めてきびなごを手開きした子どもたちからは、内臓がブニブニしていて気持ち悪かったけど、慣れてくると上手にでき、楽しくなったという感想があった。その後、宿毛市産業振興課の方から、宿毛湾で捕れる魚について教えていただいた。子どもたちは捕れる魚の種類と漁獲量に驚いていた。ただ、近年漁獲量が減っているということを聞いて、海を守っていかなくことの大切さを感じた子もいた。自分たちの手で作った料理を食べて、「一番おいしい料理ができた」とみんな大満足だった。

○一番おいしかったのはサゴシ（サワラ）のフライでした。サゴシは噛んだ瞬間サクッとしていて、今まで食べてきた中で一番おいしかったです。2番目においしかったのはタイの味噌汁で、3番目が鯛めしでした。こんなにおいしい料理を教えてくれた方々と海の恵みに感謝したいと思います。（～子どもたちの感想から一部抜粋～）

⑥　すくも湾漁業協同組合（市場）の見学（生活科３、図工３）

10 月 17 日に１、２年生がすくも湾漁協を見学した。市場の様子や水揚げされた魚を見学させてもらった。また、セリの様子を見たり、冷凍庫などの大型の機械を見せてもらったりした。実際に鰹を触った子どもたちは、「プニプニしていた。目が大きかった。」と驚いていた。その後、宿毛漁業指導所の中城さんか宿毛湾で行われている巻き網業、養殖業、引き縄、定置網、釣りなどの漁業について分かりやすく教えてもらった。この市場に水揚げされ 100 種類ほどの魚が販売されているという話が心に残った子もいた。この活動後、市場の様子や水揚げされた魚の絵を描きみんなで交流することができた。

⑦　竜串・松崎海岸での校外学習（理科５、総合的な学習の時間４）

11 月 15 日に５、６年生が足摺宇和海国立公園にある竜串・松崎海岸の見学を行った。６年生の理科の教科書には松崎海岸（土佐清水市）の地層が掲載されている。そこで、土佐清水市観光商工課とジオパーク推進室の方々のお世話になり、実際に教科書に載っている地層の見学と竜串海岸の見学に行った。松崎海岸では、佐藤さんが砂岩や泥岩の違い（見分け方）について教えてくれた。また、海の中で何万年もかけて作られた地層が、地震などで隆起して今歩いている足の下にあると聞いて驚いていた。竜串海岸の見学では、グラスボートに乗って、海の中のサンゴや魚を見学（船長さんが詳しく説明をしてくれた）したり、見残しの穴の開いた岩（奇石）を見学したりした。子どもたちの中には初めてグラスボートに乗った子もいて、船が走り出し、海中が見えると「うわ～！すごい！」という歓声が上がった。海の中の透明度も高く１０ｍ以上の水深でも海の底がはっきりと見えていた。

○グラスボートに乗って海底を見ました。魚もたくさんいたし、サンゴもいろいろな色があってとてもびっくりしました。サンゴがオニヒトデに食べられるということは知っていたけど、オニヒトデに食べられるとサンゴの色が赤やオレンジから白に変わるので驚きました。大きい魚や小さい魚の群れ、ウツボなどあまり見られない景色が広がっていて楽しかったです。
○イカも見ることができてよかったです。それに、海もとてもきれいで癒されました。
○今まで教室で、教科書の写真や動画のＤＶＤを見るだけだったけど、実際に砂岩や泥岩を触ったり、地層の見学をしたりすることができて勉強になりました。それに、不思議な海岸線や海の中の魚・サンゴが観察できてよかったです。（～子どもたちの感想から一部抜粋～）

⑧　黒潮生物研究所の見学（総合的な学習の時間６、図工２）

11 月 28 日に 5 年生が黒潮生物研修所を見学した。今年度、中地所長には、１、２年生が「福良川の汽水域での水辺の生き物調べ」や４、５年生が実施した森林植樹（紅葉 150 本植樹）でも大変お世話になった。今回の黒潮生物研究所の見学では、宿毛湾の生物について詳しく教えてもらった。特に、ヒトデ、ナマコ、アメフラシなどについても学習することができた。世界で一番大きなナマコと一番小さなナマコが宿毛湾にいるということも教えてもらった。また、一番小さなナマコは５ｍｍ位の大きさで中地所長が発見したということを聞いて驚いていた。ウニの標本づくりも針がとれたあとの色がとてもきれいで子どもたちは楽しく活動できた。

この活動を通して、日本を代表する優れた自然がある宿毛湾（人間活動の影響が少ない、自然のままの海岸が多い、黒潮の影響で暖かい等）でも、ゴミの投棄や埋め立てなど様々な影響で、魚の漁獲量やサンゴ・海藻が減ったり、磯や干潟で貝がとれなくなったり、昔見なかった生き物が増えてきたりしているということを学習することができた。

⑨　海上保安庁の見学（総合的な学習の時間６、キャリア教育２）

12 月 11 日に 5、6 年生が海上保安庁の見学を行った。海上保安庁の方々には、海岸の清掃活動や海抜表示などで度々お世話になっていたが、海上保安庁の見学と体験航海は初めての活動だった。

海上保安庁では、海上保安庁の仕事や海を守っていくことの大切さを学んだ。特に家庭から排出されたゴミや油、生活用水が海を汚している一番の原因だということを学習した。次に、ガラスクロスを使って水に浮かんでいる油を吸い取る実験をした。ガラスクロスが油だけを吸い取る様子に子どもたちは驚いていた。最後に海上保安庁の仕事についての話があった。人命救助、災害への支援、海の環境保全など海を守る活動をしている海上保安庁の仕事にはとても関心が高かった。

海上保安庁で学習した後、巡視船「あらせ」に乗り体験航海をした。「あらせ」の操舵室では、レーダーや双眼鏡を見たり、操縦席に座らせて頂いたりととても貴重な体験ができた。この活動後には、「将来、海上保安庁の仕事をしてみたい。」という子どもの感想もあった。

【海上保安庁の見学】

○よく耳にする赤潮が、私たちの食べた料理や油などの残り物を海に流したりすることで発生することもあると聞いて驚きました。また、油を少し海に流しただけでもそれを取り除くことがとても大変だということも学習しました。これからも海にゴミを捨てたり油を流したりしないように気をつけ、きれいな海を守る努力をしていきたいです。

○海上保安庁の仕事は、人の命を救ったり、災害に備えたり、青い海を守ったりする大変な仕事だと思います。朝、昼、夜、いつ問題が起きてもその場に一秒でも早く行き、命や海を守っていて、とてもかっこいい仕事だと思いました。（～子どもたちの感想から一部抜粋～）

【体験航海】

○「あらせ」の乗船体験では、操縦席に行ったときに、乗っている人がみんな自分の役割をしっかりとこなしていて（かっこいいな）と思いました。私たちが海で安全に、海がきれいに生活できているのは海上保安官の皆さんがいてくれるおかげだと分かり、海上保安官は誇り高い素晴らしい職業だと再確認することができました。双眼鏡で海の様子や近づいてくる船を見るのは、実際に船に乗っていないとできない貴重な体験で、とても楽しかったです。

（～子どもたちの感想から一部抜粋～）

⑩　防災マップづくり(社会科６、総合的な学習の時間２)

12 月 12 日に 4 年生が、まだ作成できていない栄喜地区の防災マップづくりを行った。マップづくりでは、実際に地域にある避難場所を歩き、見て感じたことをまとめて防災マップにしていく。子どもたちの感想の中には「避難場所までの坂がきつい。狭い場所がある」「滑りやすい」「防災倉庫が欲しい」などの問題点も見つけていた。こうした学習を参観日等で発表し、保護者・地域と連携しながら学習を深めていきたい。

⑪　お別れ遠足：足摺海洋館の見学(学校行事６)

2 月 27 日(水)全校でお別れ遠足(足摺海洋館)に行った。海洋館には、サメやイサキ、シマアジやハタ科の大きな魚、海ガメやアザラシなど多くの種類の海の生き物がいるが、こうした魚たちが泳いでいる姿に子どもたちは大喜びだった。また、海辺の生き物に触れ合えるコーナーにもたくさんの子どもたちが集まっていた。

1、2 年生のえさやり体験は、大水槽の上で行ったが、集まってきた魚の大きさとえさをとるときの水音に子どもたちは驚いていた。水槽の中を見て「大きいサメがいた」と興奮していた子どももいた。実際に見たり触ったりすることができる体験学習は、子どもたちにとって非常に効果的な学習になっている。

⑫　釣りクラブの活動（クラブ活動：月１回）

毎月 1 回のクラブの時間に、４～６年生の希望者が学校の北西にある小筑紫湾で釣りをして楽んでいる。釣れる魚は、グレ、キス、ガシラ、ベラ、フグなどたくさんの種類の魚が釣れる。大きな魚が釣れると子どもたちは大喜びで、釣った魚を家に持ち帰り、家の人に料理してもらっています。クラブの時間は、子どもたちにとって楽しい活動の時間になっている。

５．実践の成果と課題

小筑紫の子どもたちは自然豊かで古くから漁業の盛んな地域で暮らしているが、身近にあるからこそ自然の豊かさや海からの恩恵、海の素晴らしさを実感できにくい。しかし、今年度は海洋教育パイオニアスクールプログラムのおかげでたくさんの体験活動や防災学習に取り組むことができた。特に、海洋教育のねらいである「海での体験活動や環境保全に向けた取組」「海を知り、海とともに生きる地元の人たちとの交流」「海の脅威（津波）から命を守る取組」は本校の取り組みと同一であり、上記のねらいのもと地域・関係団体の協力でたくさんの体験活動などを実施することができた。このことにより、子どもたちからも「漁業をしている人たちの苦労と喜びを知ることができた。」「このきれいな海の素晴らしさを学習できた。これからもこの海を守っていきたい！」「海の恵みに感謝すると共に学んだことを学校だけでなく地域でも活用していきたい！」などの豊かな自然環境を守り、伝えていくことの大切さを体感することができたのではないかと思われる。今後も地域や素晴らしい自然環境に目を向け、海の素晴らしさや海に関係した職業についての理解をより深め、環境保全に努める人材育成が期待できると考える。

６．主な関連機関

宿毛市産業振興課、宿毛海上保安庁、黒潮生物研究所、県立幡多青少年の家、栄喜漁協女性部、宿毛漁業指導所、学校給食センター、宿毛漁業指導所、土佐清水市観光商工課、足摺ジオパーク推進室、すくも湾漁業協同組合、足摺海洋館他

１、２年生「海の魅力を実感プロジェクト」

【実践のねらい】

　身近にある豊かな自然に触れ合う体験をすることを通して、海の魅力を実感させることで、「海に親しむ」「海を知る」「海を守ろう」とする態度を育てる。

【主な連携機関と内容】
- ○ 海上保安庁
- ○ 松岡防災士
- ○ 黒潮生物研究所
- ○ すくも湾漁協
- ○ 足摺海洋館

○　時数　５月～２月

○　関連　生活科・図画工作科・特別活動・学校行事

○　目標

(1)　海での体験活動を通して、海の魅力を実感し海を大切にしようとする心情を育てる。

(2)　海の生き物に触れ、そこで働く人々の姿を見ることで、海に関心を持たせるとともに豊かさに気づかせる。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
体験的な活動		「海に親しむ」 「海を守る」 大海の浜での遠足 （学校行事：６時間） ①海辺の生き物 ・海辺の生き物観察 ・海岸での遊び ②海岸の清掃活動 ・全校でゴミ拾い活動 ・海上保安庁の方の説明を聞き、ゴミの分別		「海を知る」 防災学習 （特別活動：３時間） ①親子で避難訓練 ②避難場所での講師（松岡防災士）の講評等		「海に親しむ」「海を知る」 福良川汽水域(干潟)の生物の観察（生活科：６時間） ①福良川の干潟の生き物と宿毛湾の自然(生き物)についての話 ・どんな生き物がいるのか・ ②干潟での生き物採集と名前を教えてもらう。 ・たくさんの生き物が生息している干潟の重要性の確認			「海に親しむ」「海を守る」 足摺海洋館の見学 （学校行事：６時間） ①えさやり体験 ②水族館の魚の観察 ・えさを食べている様子を観察する ・気のついたことを意見交換する		
探求的な活動							「海を知る」「海を利用する」 すくも湾漁協の見学 （生活科：３時間　図画工作科：３時間） ①市場の見学 ・宿毛湾で獲れた魚の種類と漁獲量の見学 ・そこで働く人々の様子 ②宿毛湾で行われている漁業 ・宿毛湾の漁業についての学習（DVD と講話） ③見学したことを絵に描き発表する					
表現活動											学習の振り返りと学習発表 （生活科・図画工作科・キャリア教育：４時間） ①活動を絵に描いたり、まとめたりして発表する	

３、４年生「海の魅力を実感プロジェクト」

【実践のねらい】

地域を知る学習をさらに深め、豊かな自然の恩恵を受けながら暮らしている地域の人々や自然を守っていくことの大切さを学習する。また、海と共に生きる地域だからこそ必要な「命を守る」より実践的な防災学習に取り組む。

【主な連携機関と内容】
- ○ 海上保安庁
- ○ 松岡防災士
- ○ 宿毛市産業振興課
- ○ 足摺海洋館

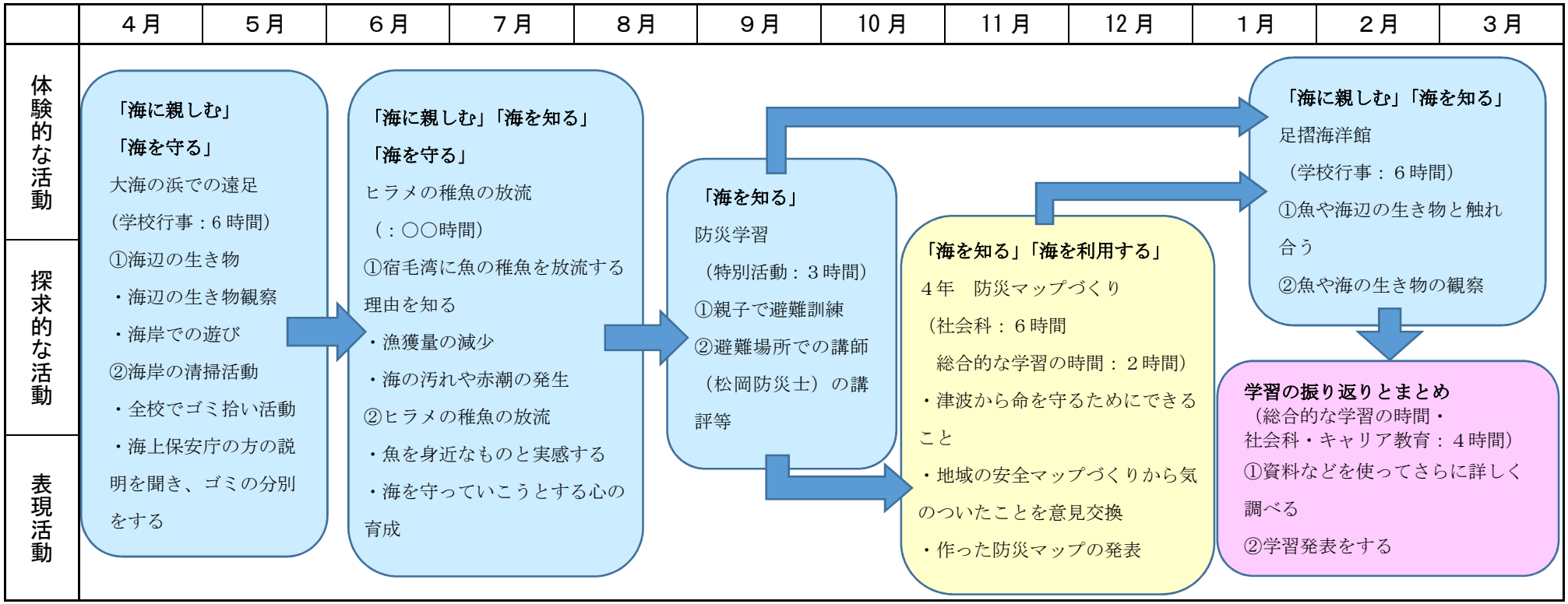
○　時数　５月～２月

○　関連　社会科・総合的な学習の時間・特別活動・学校行事

○　目標

(1)　海での体験活動を通して、海の魅力を知ることで海を守っていこうとすることができる。

(2)　豊かな海の宿毛湾の現状と課題を知り、友だちと関わりながら主体的に課題を解決しようとする



５、６年生「海の恵みと海を守る大切さ実感プロジェクト」

【実践のねらい】

豊かな宿毛湾の自然と生態系を学習することで、豊かな自然を再認識すると共に課題を明確にし、海を守り育てることの重要さを考えさせる。また、体験学習を取り入れ、地域を深く学習することで主体的に学び、実践する力を育てる。

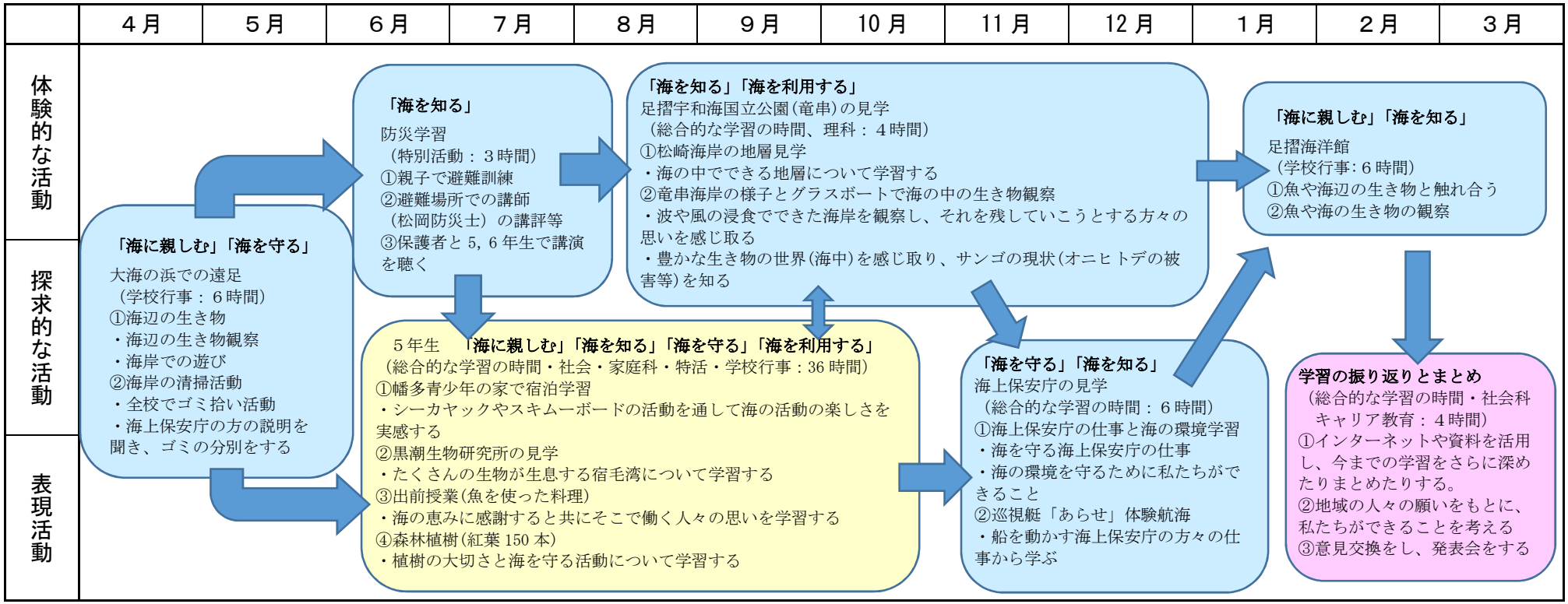
【主な連携機関と内容】

○海上保安庁	○宿毛産業振興課
○松岡防災士	○宿毛市給食センター
○県立幡多青少年の家	○土佐清水市商工観光課
○黒潮生物研究所	○足摺ジオパーク推進室
○栄喜漁協女性部	○宿毛市森林組合
○宿毛漁業指導所	

○　時数　５月～２月

○　関連　理科、社会科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事

○　目標

(1)　体験活動を通して確認された課題を主体的に解決していこうとすることができる。

(2)　宿毛湾の現状を捉え、「海の恵みと海を守っていく」ことの大切さを実感し、意欲的に地域と関わろうとすることができる。